

Title	ガン患者と栄養
Author(s)	中野, 陽典
Citation	癌と人. 1977, 5, p. 12-13
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24176
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ガ ン 患 者 と 栄 養

中 野 陽 典*

ガンと栄養の問題については、古くから、いろいろ論議されていますが、特に発ガンと栄養の関係、ぎゃくにガンの予防と栄養との関係についての研究が多くみられます。

本誌でも第2巻(1974年)で矢野敦雄博士が、ガンと栄養と題して論じておられます。

ガン患者の栄養問題およびガンを治療する上での栄養についての考慮も従来から研究の対象になっていますが、特に最近重要視されていますので、今回この問題を取り上げてみました。

—ガン悪液質—

一般にガンの発育と共に、ガン患者はやせおとろえ、貧血、食欲不振などを主体とする消耗性栄養不良状態におちいってきます。この状態は通常ガン悪液質と呼ばれ、消化器系統のガンで栄養をとれなくなった患者だけでなく、その他のガンでもあらわれてきます。この原因については、膨大な研究発表がなされ、いろいろの事実が明らかにされていますが、ここでは割愛させていただいて、この栄養不良の状態が患者になにをもたらしかを考えてみましょう。

まずこの状態は、生命に必要なからだの重要な働きをくるわせ、からだの抵抗力(免疫力)を弱め病気のバイ菌やウィルスの感染を容易にし患者を死へと導びいていきます。

もう一つの不利益は治療をさまたげることです。最近数年間のガン化学療法(薬によるガンの治療)、放射線療法の進歩は、ガン治療の有効率を著しく高め、患者の生存期間を飛躍的に延長せしめているのです。しかるにガン患者の栄養不良状態は、この有力な治療から患者を脱落せしめているのです。すなわち多くのガン化学療法、放射線療法のもつ副作用に容易に屈する状態を作っているのです。

—ガン患者の栄養状態の改善—

もしこの栄養不良状態を適切な栄養の補給とすることで改善していくなら、そのガン患者は、生命の維持に必要なからだの機能をよく保持し、またバイ菌やウィルス、ひいてはガンそのものに対する抵抗力(免疫力)をもよく維持するでしょう。また化学療法や放射線療法の副作用にもよく耐えうるでしょう。このような仮説にもとづいて多くのガンを治療する医師達は、ガン患者の栄養状態の改善に努力をはらってきました。しかし容易にうまい方法はみつからなかったのです。

—完全静脈栄養—

最近医学の分野で静脈から栄養を補給する方法が進歩し一口も口から食べなくとも、人間の成長やからだの機能の維持に必要なカロリーや蛋白質その他の栄養素を安全に補給しうようになってきました。すなわち必臓に近い太い静脈から高濃度のカロリー源や蛋白源を与える技術が開発されてきたのです。

ガンの治療にも、これが利用されるようになるのは当然のことであり、ここ2~3年世界各国のガンを治療する人達がさかんこの方法を用いて成果をあげだしました。もちろんこれだけでガンが治るわけではありませんが、この方法を用いると栄養不良のガン患者の生体機能の維持が容易となり、その免疫機能はよく維持されるという報告があいついでいます。先にものべたごとく進歩してきたガン化学療法、放射線療法を受ける恩恵から脱落していく患者を救い上げ、同時にその副作用に耐えさせ、たとえ一口もたべられなくとも栄養は補給され、一段と治療効果の増強に役立ってきています。患者の

* 大阪大学助手(微生物病研究所附属病院外科)

生命延長の期待はしばしば現実のものとなってきています。

今後は投与されるべき栄養素の内容が、進歩し、一段と有用なガン治療の補助手段となるでしょう。

ただ、これらの栄養の強制補給が、ガンの増殖を早めるのではというけねんが一部にあるようですが、多くの研究者は、この不安を否定しています。特にガン化学療法や放射線療法との適切な併用は有用でこそあれ、何らマイナスな面はありません。要はガンの治療に耐える能力を生体に与えようとするのですから。

— 栄養の補給が治療を容易にする —

以上近年進歩してきた完全静脈栄養のガン治療への応用を考えてみましたが、もう一つの大きな問題は、充分口から食べることでできるガン患者は、何をたべ、何をたべるべきでないかということです。この問題も古くから論議され、低カロリー、低蛋白食（特に動物性蛋白を悪し

とする）が良い等の説が、いくたびかとなえられました。しかし、ガンの増殖と栄養の問題は単純でなくガンの種類によっても大きく異なり定説となりうる事実はないといってよいでしょう。ただ言えることは、如何に食事を工夫し、あるいは絶食しようともガンは治らず、必ず患者を倒すということです。ではどうすべきか、それは、正常人にて理想とされる必要カロリー、栄養素をとり、ガンの化学療法、放射線療法を必要なだけ行いうる生体側の耐容力を維持することだと考えられます。

ガンと栄養の研究は、不明の点を多く持ち乍ら少しずつ進歩しています。やがては、ガン患者の理想食はこれだと言える時代が来るかも知れません。また発ガンを許さない食事はこれだと言えるようになるでしょう。しかし今は、ガン患者の治療の原則は、手術、化学療法、放射線療法であり、正しい栄養の補給がこれらの治療法のもつ力を最大限に発揮させる武器なのだと言えましょう。